

## ●天然物の構造解析

TN017

### Structure Determination of Natural Compound

#### [概要]

天然物より抽出・単離・精製された生理活性成分の構造を解析することは、新規な構造を有する医薬品などの探索研究にとって極めて重要です。このような天然生理活性物質は微量で、かつ複雑な構造を有するものが多く、構造解析には極めて高度な技術が要求されます。ここでは、滋賀県甲南町の土壌より得られた放線菌の一種である *Nocardia brasiliensis* SC-4710 から単離された天然物、PC-766B の構造解析例をご紹介します。

#### [事例] 天然物 PC-766B の構造解析

当初、PC-766B は IR スペクトルなどより、18 員環マクロライド系抗生物質である Concanamycin C と非常によく似た構造との情報がありました。しかし、種々の機器分析に加えて COSY などの二次元 NMR 法を駆使することにより、16 員環マクロライド系の新しいタイプの抗生物質であることがわかりました。

Fig.1 に解析前処理を、Fig.2 に PC-766B の構造式をそれぞれ示します。

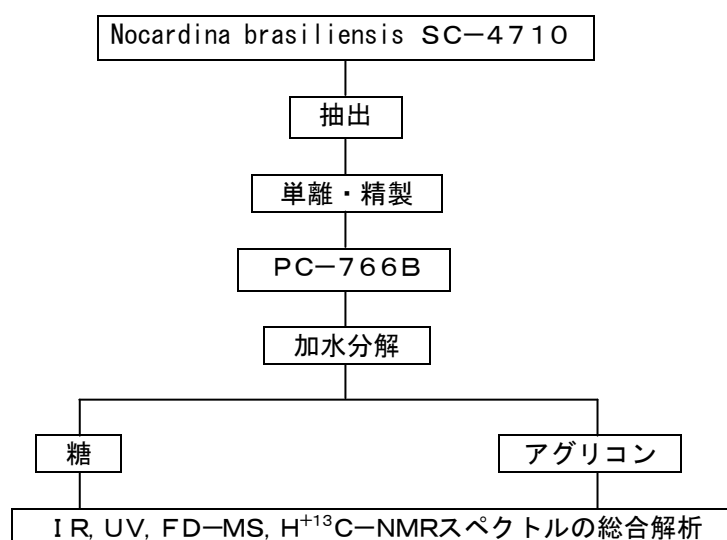
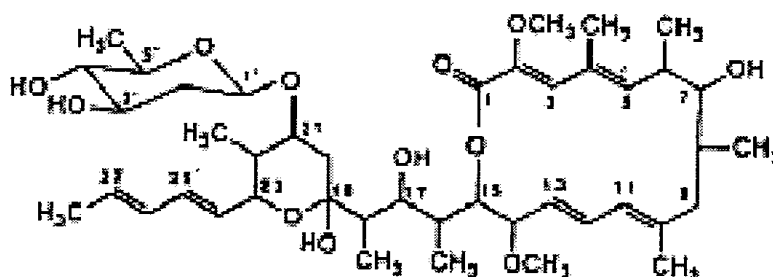


Fig.1 The scheme of steps of structure determination



PC-766B

Fig.2 The proposed structure of PC-766B

文献 : Kazuo Kumagai, Koichi Moriguchi et al., J.Antibiotics 46,1139(1993)

註) 本件は、住友化学株式会社との共同研究によるものです。